

# 保育所の自己評価

総括

記入日 R.2.10.29.

## <評価について>

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

- A—理想的な状況にある状態(120%の状態)
- B—通常行われている状態(100%の状態)
- C—一部改善・あるべき姿に到達していない状態(70%状態)

## I 子どもの発達援助

### I-1 子どもの発達援助の基本

理念や基本方針は、保育所の保育に対する考え方や姿勢を示すものです。これが明確にされていることによって、職員は自らの業務への意識付けや子どもへの接し方、保育・保育サービスに対する具体的な取組を行うことが出来るようになります。また、実施する保育・保育サービスを保護者等にわかりやすく伝えることが保育所に対する安心感や信頼を与えることにもつながります。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 全体計画を、基本方針に基づき、作成している。	① 全体計画の作成には職員が参加している。	A
	② 地域の実態や保護者の意向などを考慮して、全体計画を作成している。	B
	③ 全体計画を保護者に説明している。	B
(2) 指導計画の評価・検討を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を見直している。	① 各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	A
	② 日常の保育を通して子どもの思いや気持ちを汲み取りながら、指導計画に反映させている。	A
(3) 各年齢の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録がある。	① 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録がある。	B
	② それぞれの子どもに関する情報を熟知している。	A
	③ 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実績について話し合うためのケース検討を必要に応じて実施している。	B

### I-2 健康管理

健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態と集団の状況に応じて日々丁寧に実施することが大切です。組織として子どもの健康管理に関する基本的なマニュアルを整備し、それぞれの職員が必要な知識等を習得していくことが必要となります。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 子どもの健康状態は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	① 健康に関するマニュアルがあり、職員に周知し、実施している。	A
	② マニュアルがあり、それを活用している。	A
(2) 乳幼児突然死症候群(SIDS)・感染症等を予防する仕組みがある。	② マニュアルに基づき、保護者へ感染症の予防策及び対応について周知している。	A

### I-3 食事

小分類	評価項目	評価結果
(1) 食を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している。	① 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	B
	② 落ち着いた環境で楽しく食事ができるように工夫している。	A
	③ 食事の状況に基づき調理内容を改善している。	A
(2) アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	① アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	A
	② 間違いないように個別のプレートやトレーなどで分け、調理師同士や保育士と確認している。	A
(3) 文化・習慣の違いなどの個別に配慮した食事を提供している。	① 保護者の申し出により、個別に対応している。	A

### I-4 保育環境

保育園は、子どもたちにとって生活の大半を過ごす場であり、「生活の場」といえることができます。子どもたちが心地よく過ごす生活の場には心地よい環境を整えていくことが大切です。生活環境には身体的な心地よさ、精神的に落ちる心地よさ、衛生的な心地よさなどがあり、様々な面から保育環境を整備し、子どもたちが園で快適に過ごせるようにできる限りの配慮をする必要があります。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	① 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している。	B
	② 園内外の衛生面・安全面に配慮している。	B
(2) 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	① 生活の場面にあった保育者の声、音楽などに配慮している。	A
	② 園内に、子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。	A

## I-5 保育内容

子ども一人ひとりへの理解を深め、受容することは保育の基本です。子どもを受容するということは、子どもの言いつ分をよく聞き、保育者が子どもの気持ちに共感しなくてはなりません。保育者は常にゆったりとした気持ちで、子どもたちの思いや要求を受容することが大切です。また、保育内容については、様々な取り組みがありますが、まず、子どもと保護者の人権を尊重した上で、子ども一人ひとりの家庭環境、身体的能力、精神的成長の違いを把握して保育をすすめることが大切です。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	① 子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、穏やかに話している。 ② 子どもの要求や訴えに対して、子どもの気持ちを受け止め、状況に応じた適切な対応をしている。	A A
(2) 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に活動できるような環境が整備されている。	① 基本的な生活習慣や生活現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	B
(3) 子どもが主体的に活動できる環境が整備されている。	① 子どもが様々な活動を自由に体験できるような環境が整備されている。	B
(4) 身近な自然や社会と関わるような取り組みがされている。	① 身近な生活体験の中で、命の大切さや季節感など、豊かな感性を育むよう配慮をしている。	A
	② 生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。	B
	③ 散歩や行事などで、子どもたちが地域の人と関わる機会を作っている。	C
(5) 様々な表現活動が体験できるように配慮されている。	① 身体等を使った様々な表現遊びが取り入れられている。	A
	② 様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮されている。	B
	③ 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A
(6) 遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	① 喧嘩の場面では、危険のないように注意しながら、子どもたちのプライド、自立性を尊重し、子どもたち同士で解決するよう援助している。	A
	② 順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。	A
	③ 広く社会性が身につけられるよう、異年齢の子どもたちや様々な年齢層の人たちと交流している。	B
(7) 乳児保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮をしている。	① 離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている。	A
	② 一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。	A
	③ 顔を見合わせてあやしんだり、乳児とのやりとりや触れ合い遊びを行っている。	A
	④ 特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	A

小分類	評価項目	評価結果
(8) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	① 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	B
(9) 障がい児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	① 保護者の理解のもと、関係機関、医療機関等との連携を図り、必要に応じて助言・援助を受けている。	B
	② 障がい児が園生活を送るために、必要に応じて園の子どもたちや保護者に障がい理解できるような言葉かけをし、配慮している。	B
(10) 積極的な運動環境の工夫を遊びの中に取り入れている。	① いろいろな運動遊びを工夫しながら取り入れている。	A

## I-6 入所児童の人権尊重

人権を尊重する保育は、保育の基本であり、文化や考え方の違いをお互いに尊重できるように心がけたいものです。保育現場においても、多くの外国人がおり、文化や生活習慣の違いなどを正しく理解し、互いに尊重する対応が求められます。また、性意識についても無意識の内に性別による指示を不用意に出していないか、日頃から職員間で相互に確認しあうことが大切です。

小分類	評価項目	評価結果
(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	① 子どもが自分の思いや意見を、はっきり言うことができるよう配慮し、それを尊重している。 ② 一人ひとりの子どもの心身の状態、生活習慣や文化、家庭の事情、考え方の違いを知り、それを尊重する心を育てている。	B B
(2) 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	① 子どもの態度、服装、遊びなどで性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮している。	B
(3) 外国語や帰国子女の子どもに対して、適切な配慮がなされている。	① 日本語によるコミュニケーションが困難な保護者に対して、園の意向や連絡事項が正しく伝わるよう、努力や工夫をしている。	B
(4) 保育中の子どもの人権尊重を意識している。	① 保育者は、子どもの人権尊重を意識して保育を行っている。	A

(総括)

- ① 感染症等の状況の中で、職員間で目的の見直しや情報共有をしながら保育をすすめることができた。  
日々の安全面や健康面での配慮をよりこまやかに行なっていた。
- ② 子どもや保護者について、職員間で連携をとりながら関係を築くことを今後もつなげていきたい。その土台として日頃からのコミュニケーションの在り方について考えを深めていきたい。